

今治の埋もれた、魅力ある歴史文化を紹介するコーナーです。第十二回は、地域活性化の一つである観光振興にスポットを当て、大山祇神社国宝館の建設や波止浜町の公園整備など、大正・昭和初期の今治観光を歴史散歩したいと思います。

第十二回

観光都市・今治の身近なルーツ

●観光ブームの到来と伊予今治

わが国が近代国家として成熟を見せる大正時代、観光という言葉が普及します。大正四（一九一五）年には、従来の日本三景（松島・天橋立・宮島）に代わる名勝地として「新日本三景」が誕生。これは、大衆雑誌を出版する実業の日本社が公募し、大沼（北海道）・三保の松原（静岡県）・耶馬溪（大分県）が選定されました。

昭和二（一九二七）年には、東京日日新聞社と大阪毎日新聞社が「日本八景」（山岳・溪谷・瀑布・温泉・湖沼・河川・海岸・平原）や「日本百景」を公募。愛媛では「日本百景」の山岳で石鎚山、溪谷で面河溪が選ばれました。交通網の発達などもあり、昭和

初期には旅行ブームが到来します。

そのブームを陰で支えた商業デザイナーに、大正の広重とも称される吉田初三郎がいます。彼が描くカラー刷りの鳥瞰図が、観光地の魅力を引き出す役目を果たしました。愛媛では、大正二六（一九二七）年元旦発行の大阪毎日新聞の付録に、彼の『日本鳥瞰中国四国大図絵』があり、今治地方では大三島大山祇神社・能島城跡・綱敷天神などが小さく掲載されています。

●大山祇神社と国宝館の建設

希少な古美術を大山祇神社が収蔵することは、今治藩の国学者・半井梧庵が編纂した地誌『愛媛面影』にも記されます。この常設展示を望む声は大正期に高まりをみせ、同二（一九一三）年の国宝保存会結成などをへて、同一五年六月に国宝館の開館へとつながります。外観は木造建築に見えますが、耐火や耐震に配慮し、当時としては珍しい鉄筋コンクリート造りの構造になっています。

この建設運動に拍車をかけたのが、地理学者・志賀重昂の東京国民新聞への投稿でした。同紙の大正八（一九一九）年一月二三日付に「兵器類の国宝に至っては日本全国の国宝の八割を占め…」の文章が載り、大三島が「国宝の島」として認識されるきっかけにもなりました。昭和二五（一九五〇）年の文化財保護法の施行で、国宝八割の表現には訂正が必要ですが、希少な武具類の数は今日でも群を抜いています。昭和二（一九二七）年に石崎汽船が発行した航路

遊覧名所案内図絵『大三島宮と道後・松山』には、大山祇神社の由来や見所が詳しく記され、初三郎が鳥瞰図を描いています。国宝館は写真付で掲載され、まるで大三島一押し観光スポットのようです。



大山祇神社の国宝館（大山祇神社絵葉書より）

●公園町長と呼ばれた原貞十郎

大正六（一九一七）年に波止浜町長に就任した原貞十郎は、塩田・造船の地場産業振興に加え、観光事業にも積極的でした。同一一年に小島の芸予要塞



小島の芸予要塞北部砲台跡（波止浜名勝絵葉書より）

廃止が決まると、この払下げを国へ働きかけます。主たる目的を魚付林^{うおづりりん}の保護や軍事思想の普及と伝えますが、真意は観光振興だったと考えられます。この実現は、同一五年の小島爆撃演習をへて昭和二年に達成され、町はこれを公園に編入します。

一方、これに先立ち、町は大正一三（一九二四）年に妙高山へ開発の手を入れ、波止浜公園を整備します。これは、同年二月一日の国鉄波止浜駅の開業に合わせたもので、風光明媚^{ふうこうめいび}な来島瀬戸を一望する場所に、旅館や東屋^{あずまや}などが立ち並びました。町では独自に「波止浜八景」や「新波止浜十勝」を選



波止浜公園の眺望（波止浜名勝絵葉書より）

定し、観光PRに力を注ぎました。

昭和四（一九二九）年に野口雨情（作詞家）が今治へ来遊^{らいゆう}した際は、原が案内役を務めたようで、このとき誕生した民謡が『今治音頭』（作曲／中山晋平）です。同一一年春に吉井勇が今治地方を歌行脚^{あんぎゃく}した際も、自らの小島の別荘へ勇を宿泊させています。勇は鈍川と大三島も訪ね、詠んだ作品が歌碑となり、千疋峠と宮浦港に残っています（鈍川温泉の開場は大正一四年九月）。同一五年には、小浦在住の塩崎素月の働きかけで、高浜虚子を招いた俳句大会が波止浜公園で開催されています。同公園には現

●今治観光協会の誕生と国名勝指定

昭和一二（一九三七）年三月、今治地方の海と山の観光資源を活かそうと、今治観光協会が発足します。「観光事業は公益事業で、風景という無形の資本を活用する産業」と位置づけ、名勝絵葉書の発行や名所旧跡の宣伝を主な活動としました。早速、同一三年に波止浜が国の名勝に指定され、一六年には志島ヶ原（桜井）と千疋のサクラ、一七年には大三島、一九年には八幡山（吉海町）がこれに続きます。当時発行された絵葉書を見ると、先人のふるさと自慢に気づかされます。



玉川町千疋峠の吉井勇歌碑
（鈍川村史蹟勝景保存会建立）

在、虚子の句碑と原の胸像が残っています。